

災害用非常食白い小箱

尾鷲市早田町のビジョン 田22箱購入 津波避難場所に保管

尾鷲市早田町のビジョン早田実行委員会(委員長・岩本芳和区長)は27日、災害時の避難生活などに対応し

た災害用備蓄品セット「白い小箱」を22箱購入した。白い小箱は津波避難場所に指定されている旧早田小学校グラウンド(海抜20㍎)の防災倉庫に保管し、災害時に備える。

日本非常食推進機構(四日市市)が災害時の自助・共助・公助の連携を目的に推進する「白い小箱」運動。

同機構設立の2011(平成23)年11月から公立高校や自主防災会を中心に4年間で約2

万個を販売。持ち運び可能な1500円と手頃な価格のため、学校や避難所、家庭などで備蓄されている。

尾鷲市の購入は矢浜と泉の自主防災会、九鬼町内会に続く4団体目。ダンボールの白い小箱(縦33㍎、横17㍎、高さ13・5㍎)にはアルファ米や2㍎の飲料水、乾パン、氷砂糖など6種類の災害物資が入っており裏面には災害用伝言ダイヤル(117)の情報が掲載され、非常用の簡易トイレにもなる。

この日は小箱の詰め込み作業や納入を受け



災害用備蓄品「白い小箱」を石田元気さん(中央)に手渡すゆめ向井工場の通所者(27日、尾鷲市早田町で)

持った障がい者支援多機能型事業所「ゆめ向井工房」の仲廣郎施設長や通所者ら4人と同機構の古谷賢治代表理事が同町を訪れ、地域おこし協力隊石田元気さん(27)に手渡した。

白い小箱は災害時の個人備蓄推進のほか、他地域が被災した場合には支援物資としても有効。賞味期限(4年)を過ぎたものは回収してフィリピンなど発展途上国の食糧支援で使用される。

石田さんは「早田は災害で道路が分断される可能性があり、備蓄品を含めた避難後の対応が大切になる。白い小箱の導入をきっかけに住民の防災意識をより高めたい」と話し、古谷代表理事は「白い小箱は使い勝手がよいので県外からも注文が入るなど取り組みの輪が広がっている」と話していた。

白い小箱についての問い合わせは同機構(059-328-5345)へ。